

令和四年度 文学部 日本・中国文学科 学校推薦型選抜 小論文②

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 この冊子は、問題用紙（四頁）および解答用紙（二枚）からなっている。
- 4 この冊子のうち、落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 5 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に縦書きで記入すること。
- 6 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 7 句読点やカッコ、数字はそれぞれ一字として数える。
- 8 満点は二〇〇点である。ただし、二五〇点に換算する。
- 9 問題冊子と下書き用紙は、持ち帰ること。

— 次の文章は都を襲った五大災厄（安元の大火・治承の辻風・福原遷都・養和の飢饉・元暦の地震）の叙述に続いて記された鳴長明の述懐である。これを読んで、長明の説く「都の暮らし」の問題点を整理したうえで、長明の人生観や行動に対する自分の意見を述べよ。解答は解答用紙の範囲（七〇〇字）内に記すこと。（100点）

（著作権の関係で不掲載）

（『方丈記』による）

(注) ○権門……権勢のある者。 ○スボキ姿……肩身の狭い、みすぼらしい身なり。 ○僮僕……従僕、召使い。 ○福家ノ人……裕福な家の人。 ○念々……時々刻々。 ○炎上……火事。 ○辺地……辺鄙な土地。 ○往反……往復すること。 ○身他ノ有ナリ……我が身は他人の所有物である。 ○タマユラ……ほんの少しの間。 ○ソノカミ……その昔。当初。 ○偲ブ方々繁カリシカド……住みわびて我さへ軒のしのぶ草しのぶかたがたしげき宿かな(『金葉和歌集』雑上・家を人に放ちて発つとて、柱に書き付け侍りける 周防内侍)。 ○河原……賀茂川の河原。 ○白波……盗賊。 ○短キ運……つたない運命。下鴨社家に生まれた長明は有力者の父を十九歳で失つてからは、親族等から有形無形に冷遇・圧迫され、何度かあった下鴨社の人事異動の機会を悉く逃すなど蹉跌が多かつた。 ○官禄……官職や俸禄。 ○大原山……比叡山麓、山城国愛宕郡の大原の山。

二 次の文章を読んで、本文の内容を要約し、筆者の主張に対する自らの意見を記せ。解答は解答用紙の範囲（七〇〇字）内に記すこと。（100点）

（著作権の関係で不掲載）

（『漢書』杜周伝より）

(注) ○南陽杜衍……地名。現在の河南省南陽市。 ○義縱……人名。前漢の酷吏。 ○太守……郡の長官。 ○爪牙……部下。手先。 ○張湯……人名。前漢の酷吏。 ○廷尉史……「廷尉」は官名。刑罰を掌^{つかさど}る。「史」は補佐官。 ○辺失亡……辺境における兵士の逃亡や物資の損失。 ○減宣……人名。前漢の酷吏。 ○中丞……御史中丞。御史台の次官。官吏の不正を取り調べる。 ○重遲……のろのろしていること。 ○左内史……官名。都の管理を掌る。 ○候司……機嫌をうかがう。人の顔色を見る。 ○三尺法……三尺の竹簡に法律を書き記したことによる。 ○疏……条文として記述する。 ○詔獄……天子の勅命による裁判。 ○二千石……地方長官のこと。太守の年俸が二千石であったことによる。